

協会設立30周年記念バーチャル座談会が実施されました NI-YouthOB・OG が語る苦労、楽しさ、信頼

設立まもなく発足した青年部会は、活動がしばらく停滞していた時期がありました。数年前、NI-Youthとして活動を復活させたOB&OGのみなさんが、30周年を機会に、ネット上のチャットでその頃を振り返り、熱く語りました。

参加者は小野 翔、清水達也、東里将英、Daiki Sugiyama(杉山大貴)、Hiroca Nuky(貫ひろか)、Hui(安慧)、Lisa(菊池)、shohei(小川翔平)の各氏で、聞き手は現代表の飯田勇平さんです。

飯田勇平(以下飯田) お久しぶりです。NI-youthの飯田です。習志野市国際交流協会が今年で30周年を迎えました。そこで今回、NI-youth再建時のことについてOB・OGのみなさんにお話を聞きたいです。私の質問に沿ってチャット形式で回答してくれると嬉しいです。

小野 翔(以下小野) おー！僕が入ってるのが申し訳ないくらい、すごいメンバー！お久しぶりです。大貴さんいないけど。

Hiroca Nuky(以下 Hiroca) ごめん大貴さんのLINEわからなくて。もしわかるなら誘ってください

小野 Daiki Sugiyamaを招待しました。

飯田 あと、アイザトさんは入っていますか？

Hiroca 入ってるよー。

飯田 それでは早速質問しますね。NI-youth再建にはどのくらい時間がかかりましたか？また再建当時はどんな感じでしたか？

shohei ぼくと、ガスさんと、ガスさんの奥さんと、原田さんと……。ここにいるメンバーが入る前だからね。

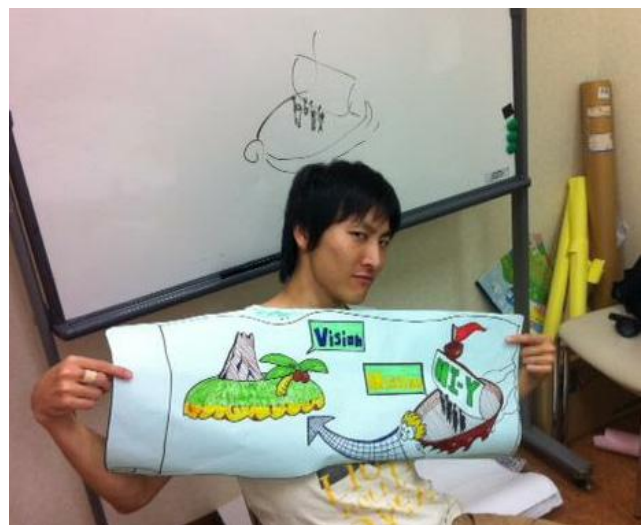
清水達也(以下清水) いつの時点を再建と呼ぶんだろう？俺が見学に来た時にYouthの議論は確か2回目の会議だったっけ？

shohei たしかたつやたちが入ってきてYouthって名前も決めたんだっけね。みんな思い出しましょう。

清水 しょうへいらがYouthを再建した直後から、ある程度しっかりした組織体制と人数

になるのには1年くらいかかったよね？というか最初の1年が大変だったよね？組織としてのビジョンや、ゴールの設定を全員で時間かけてやった1年だった気がする。

shohei そうだね。みんなで話し合っ、どんな組織にしていきたいかを時間をかけて決めていった気がする。



清水 そうだそうだ。無計画的に、単発にイベントをポンポンやってく組織じゃ意味がないって議論をして、イベントの前に組織作りをしてたかな。そして、みんなであらゆるところでスカウトしつつ、イベントする度にリクルートして行って、多分5名くらいから1年で10名くらいになったのかな？

shohei 部署わけとかもしたね。

清水 そうそう、そこから落としてった。どんな雰囲気だったかな。うーん……。最初の最初はなかなか出口が見えなかった気がする。

shohei ビジョン作りの迷宮！そして、虹色

の・・・ビジョン、ミッション、なんとか。

東里将英(以下東里) お久しぶりです(Sally oh!) ビジョン作りのところ、うっすら覚えるかも。イメージカラーとかビジョン、ミッション、ゴールについて話してましたよね？

小野 大貴さん、組織指針はキャンプで作りましたよね。僕は初めて参加した Youth のキャンプで、秘密基地作ったり、「Stand By Me」歌ったり(笑)。

Daiki Sugiyama(以下 Daiki) そうだね。キャンプしたね。あれは楽しかった。秘密基地、しゃぼん玉、スタンドバイミーと個性的なキャンプだった気がするけど(笑)。組織指針の話をしてたっけ？

2、3人しかいない時は相当の時間と労力使って組織を大きくしたように感じた。当時は、メンバーがみんなこれから人生を大きく動かす前だったからやる気に満ちていて、自己の成長や可能性を広げようと必死だったと思う。

清水 そうだったね。

飯田 初めのほうは体制作り、組織作りに力を入れていた感じですね。

清水 最初の最初、数ヶ月は2、3人だったんだけど、その後一気にダイキらがドカッ入って来て、組織っぽさや雰囲気が出てきた感じだったかな。

Hui ちなみにうちらがドカッと入ってきたタイミングはタスカルーサとの交流会で、そのときの初めての打ち合わせの情景がこちら写真。



Hui 最初は通訳や剣道体験の部分だけやる

つもりで参加した私たちは、人をかき集めたら組織の立ち上げも面白そうだなってことで、Youthを形にしようと決めたんです。

ただ、そこで問題になったのは、皆さんそれぞれ校外活動やプライベートで忙しく、なかなか定期的にミーティングに集まらないことでした。

それではせっかく集まったのに継続できない恐れがあるので、メンバーが参加しやすい環境作りや、モチベーションを保つために何をしたらいいのか、初めは個人的な興味だったけれど、どうにかしたいと思いました。当時リーダーだった達也さんに相談して、12時間に渡る議論の末、キャンプをやろうってことに決めたんです。

個性的なキャンプが大成功に終わって、心が一つになった Youthが見出した答えは、メンバーそれぞれ成長したいものは違うけれど、同じ方向に向かって高め合っていけるよね、ということでした。

そこで例えたのは「ONE PIECE!」同じ船に乗っている船員はみんな違う能力と目的は違うけれど、向かっている島は同じだねと。

飯田 若者が集まって何を目的に活動をしていましたか？当時の目標とか何かあれば聞かせてください。

shohei ウィキペディアに載ること(笑)

小野 僕もそれを思い浮かべました。

Daiki 何を目的に活動したかといえば、若い力で世界やいろんなことに興味を持って何かアクションを起こそうとしてたと思う。アントレプレナーシップを持って一生懸命活動したことが、みんな大人になってからきっと役に立ってると思うよ。

Hui 対外的には外国人が日本に来て、一番の窓口になること。たとえば、何か困ったらユース、友達欲しかったらユース、活動したかったらユースといったこと。

対内的には、長く生存していける持続可能なグループを作ること、これからリクルートする後輩のための土俵を、自分たちがいなく

でも確実に立ち上げ、メンバーの思い&DNAを受け継いでいけるような土台を作ること、突発的なイベントのときだけのために集まるのではなく、ユースを一つの組織ときて常に運航している状態にすること、などだと思う。

飯田 Youth をやってて苦労したことを教えてください。

清水 苦労というと、人数が増えるとそれぞれ考えてること違うし、モチベーションも違うから全員が納得して同じ方向に向かうのが、大変だったと思う。

モチベーションが下がらないようにするために、ケアする立場の人（イベントのリーダーだったりユースの上級生）は苦労したんだと思う。またそれでも進めなきゃいけないので、それぞれメンバーの中では大なり小なり我慢とか妥協がどうしてもあったんじゃないかな。

Hui 苦労した具体的な例をあげると、組織としての形そのものが大事だと主張するハード面重視型（グループリーダー：達也さんや大貴）VS 組織に属してるメンバーを重視するソフト面重視型（人事部リーダー：私）でよく白熱した議論を交わしていたね(笑)。

みんなユースをよくしたい思いは同じなんだけど、やり方の違いでよくディベートしてたね(笑)。愛が故の痴話喧嘩。今考えたらほっこりするわ～。

Daiki 当時の苦労はモチベーション管理。個人も団体もみんながみんなのモチベーションを保つ努力をしつつ組織の向かうべき道をそのつど選んでいくのも難しかった。

飯田 苦労の面では今も同じこと思ってます。それぞれの考え方を尊重しながら目標に向かうのって難しい課題ですよ。

逆に、楽しかったことは何ですか？

Daiki 楽しかったのは自分たちでアクションを起こしてる時だったよね。一つ一つの会議も、夢を語り合っ『これから何かしようよ！』ってうずうずしてる人たちばかりだから毎日最高に楽しく、でもみんなですぐ上手くま

とめなければとの緊張感もあり、ゾーンに入ったスポーツみたいでいつも楽しかった。

shohei 楽しかったことか。普段の生活では関わることのない他の学校の人や、他の国の人たちと関わることができたこと。

Hiroca 私はその時大学入ったばかりのころで、正直興味半分ユース入ったけど、人脈が地元だけだったのが千葉や他大学、日本、海外と広がっていったことがすごく楽しかった。

自分の知らない世界にどんどん足を踏み入れていく感じ。それが止まることなくずっとずっと続いて冒険しているような。しかも社会勉強的なこともできたかな。社会人との関わりもユースを通して増えた。

Hui そうだね(^)。"楽しかったことは、お互いを高めあえる、信頼して本気でぶつかりあえる仲間に出会えたことかな。

ユースにいる時間は生きがいを感じてた。自分のいい面を引き出してくれて、悪い面を叱ってくれる、そんなメンバーたちが大好きだった。私だからできることがあると自信を持たせてくれたメンバーたちに今でも感謝している(*´ω*)。



小野 自分の意見をしっかり主張して議論したり、やりたいことを本気で実現しようとする人たちに出会って、すごく刺激的で楽しかった。年も学校も国も違う人たちの中において、それぞれのよさを知って、自分自身も成長できたと思う。

飯田 ありがとうございます。次に進みたい

と思います。思い出に残っているイベントは何かありますか？

Hui 一番はやっぱりユースのメンバーの心を一つにしたキャンプかな。

その次にサンバ。ユースは何事にも全力だから、足の角度とかまでいちいち細かく練習して、当日も1位とろうとすごく張り切って踊ったら酸欠でぶっ倒れそうになったよね。

あとは、初めて自分たちの名刺ができたときかな(*´ω´*)。何というか、ユースの虹色のロゴに自分たちの思いが込められていて、それを見るとたまらない気持ちになった。

shohei そういえば今に生きてることとして、タイでも交流会作って活動してます。毎月開催していて今回で16回目。

Hui え？それ翔平さんの主催なの？すごい！さすがだね(๑'ω'๑)。ユース海外支部1号だね。

shohei イベントじゃないけど、たつやが企画してくれた部内研修、富士通の方だったっけ？その方に来ていただいて、マネジメントについて教えてもらったことはとても勉強になったね。そういう勉強会は今のユースにも必要だと思う。

Hui あと習志野カフェも面白かったよね。

shohei そうだね。ワールドカフェ形式でやったやつね。どのイベントでも、みんながいろんなところからいろんなアイデアを持ってきて、新しいことをたくさん知った気がする

飯田 身内だけの勉強会もやってたんですね(電球)！習志野カフェは会議室でやったんですか？

Hui いや、習志野カフェは習志野市民会館を借りてやったよ。

shohei 大久保にあるやつだね。

飯田 それ面白そうですね。どんなことをやったんですか？

shohei テーマは忘れたけど、大きな模造紙にグループ変えながらみんなの意見をどんどん書いていく感じのやつ。

Hui あれはたしかドミノをどんなものにする



るかのアイデアを出してたんだよね？ブレインストーミング。

小野 多分そんな感じだったと思います。ドミノのために、2回イベントやりましたよね。

イベントではないけど、思い返してみると毎週の会議自体が楽しかったなって思うな。決めたいことを話し合ったら、変な話にどんどん飛び火しちゃって、いつの間にか会議終わってる感じ(笑)。2時間じゃ足りず、その後すき家へ行ってもずっと喋ってましたよね(笑)。

Hui そう！あたしもあの会議のあとのすき家と日高屋での2次会議が好きだった(笑)。

Lisa お久しぶりです(cony kiss)！めっちゃ出遅れたけど、今から参加させて下さい。

私の中で1番印象に残ってるイベントはやっぱりキャンプ。なんかあんまり会議には参加出来なかったけど、キャンプに参加したことによって、これからみんなとYouthの活動頑張るぞ！って思ったし、みんなのことをよく知る機会になったから、もし今のメンバーでも機会があれば、キャンプやってみるべきだと思う。

私の中では、やっぱり人って一期一会だなんて気付かせてくれたのがYouthで、その一つ一つの出会いを大切にしようと思った。今のメンバーにも一期一会を大切にしてほしいと思う(*´ω´*)♡。



飯田 では最後に、Youth での活動が役立っていること、また今後どう進めてほしいかについては如何ですか？

清水 今でも役立っていることは、会議で、ふわふわしたもの（組織とかイベントとか）をみんなで考えて作り上げていった時の考え方や話し合い方は、今も役に立っていると思う。今後は、やはり Youth の組織の維持と活動の継続を願いたい。

そしてできれば Youth の組織の方向が作った当初とズレないで大きくなっていたら嬉しいです。あまりミッションとかゴールとかは、引き継げてなかったかもしれないけど。

Hui そうね、私も同じく、イメージを誰かと一緒に具現化して行動に移すいろんなスキルを鍛えられたよ。

たとえば、リーダーシップ（巻き込む力）、コミュニケーション能力（伝える力、聴く力）、客観視力（周りとの調和）、認可力（自分と反対意見が正しいと思う時はちゃんと認める）、想像力、観察力、突発力、忍耐力（いい意味で）、などなど。

今後のユースには、やっぱり海外で各国に支部を作って、そのうちユース内交換留学なんて出来たら最高だな。真の国際交流。これが実現したらただのボランティアに収まらなくなるかもね(*´ω*)。

私もそろそろシドニー来てから 1 年経って落ち着いて来たし、糸口探してみようかな。

Lisa ちゃん、キャンプ企画気に入ってくれてありがとう。今のメンバーにも確かにキャ

ンプを勧めたいね。キャンプの企画の中身がミソよね。

うちのときはバーベキューやサプライズゴスペル、秘密基地作るとかレジャーの部分もあったけど、それはメインの企画じゃなく、一番のメイン企画は自他分析だったよ。具体的には夜、部屋の電気を消して、ランプを部屋の真ん中に置いて、その周りをみんなで囲んだの。円形に座ることで、メンバー全員の顔が見えたし、少し暗いことで集中力がアップした。この雰囲気づくりは大事ね。



メンバーが一人ずつ、他のメンバーに対して思っていること、長所や、こうしたらもっといいところを全員分を発表した。言われてる本人は改めて自己分析できるし、みんなが自分のことをちゃんと見ているんだなって気づくことで信頼関係も生まれた。しかも聞いている他の人は違う視点からまたその人を見ることができる。改めて気づく点もある。全員発表するのに時間は 2~3 時間かかったけど、結構みんなの考えを聞くのが面白くて全然退屈はしなかったよ。

飯田 みなさん、ご協力ありがとうございました。とても貴重なお話をたくさん聞くことができました。

これは NI-Youth の OB&OG 有志が 2017. 7. 4~7. 13 に行った Chat を編集したものです。

編集とりまとめ：広報青年部会・高山進三郎